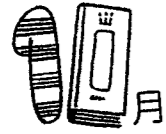




2021年(R3年)



No. 355

ひとはつうしん



社会福祉法人 ひとは福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムパ-ジアド) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

このお盆期間頃の大由による災害により、ひとはの地元、安芸高田市も大きな被害を受けました。

ひとはも、その週の土曜日を臨時休所にして、職員や関係者10名超で復旧ボランティアに参加させてもらいました。関係者の中には、職員の娘さんもいます。体力的に自信がないからどうしようかと悩む職員(母)に代わって急遽参加してくれました。その分、職員は「自宅でお孫さんのお守」という形での参加です。

ひとはを見ても、少しでもいつも通りの生活を送れるようにサポートする生活部門や食事部、誰に言われることなく残って避難所開設準備や減災の準備をする通所部門、手薄になった生活部門へ応援に駆けつけてくれた児童部門の職員。自身も避難したグループホームの住居人は「地域の人々がひとはに避難するとき、周囲が暗いと見えにくかったらいい」と、朝まで部屋の明かりをつけたばなしにしてくれていました。

東日本大震災や西日本豪雨災害等のボランティア派遣時もそうでしたが、最前線で復旧活動する人たちと共に、快く送り出す、留守を預かる、関心を持つ等、周囲の人たちの存在も欠かすことはできません。

何より急遽の休所にも関わらず、きららやその家族が復旧活動に快く送り出してくれたことは本当にありがたかったです。

(事務局 寺尾真)

“絆フェスティバル”今年も開催します

リモートで事業所をつないで出し物をしたり、事前に企画したものをみたり、いつもとは違う昼食を楽しんだりする日を企画しています。ひとはまつりを開催することは難しい状況にありますが、自治会きららを中心にひとは内でできるイベントを計画中です。

向原町の下長田在住 岩見達也さんを紹介します。

岩見さんは現在、長年の夢だったバスの運転手をされています。

*いつ頃から持たれていた夢ですか？

小・中学とバス通学だったので、運転手さんは身近な存在でした。

子どもの頃の話を親に聞くと、逆さまにした椅子の脚をハンドルのように入れて遊んでいたようです。大きい車に乗りたい夢があったので、前職中に免許を取り、市役所を早期退職後、バスの運転手になりました。

*仕事のエピソードはありますか？

考えごとをしていると、バス停を通り過ぎたり、経路を間違えたりと失敗がありました。車内事故が起きないようにブレーキを柔らかくかけること、バスが停まってから降車口に向かうように車内放送をしています。仕事中に心がけていることは、イライラしないよう、心穏やかに運転することです。夜間の高速バスの運転もあるのですが、職に就く前に眼科で検診を受けると、両眼が白内障になっていたことがわかり、手術をしました。

ひとはの前を走るときには、次郎水さんや亀井さん、下長田地域の子どもたちなど、顔見知りの人達を乗せて走ります。子どもの頃に身近に感じていた運転手さんに自分がなれているようでうれしく思います。

*ひとはに対して思うことはありますか？

施設らしくない施設だと思えます。日常生活に溶け込んでいるような。ひとはの活動がよく見える雰囲気が良いと思います。独身の頃からずっと、ひとはの行事には参加させてもらっています。



絵: 山野智寛

おわび

先月の「ひとはつうしん9月号」くらむぼん取材記事におきまして、インタビューに応じてくださった ささきあいらさんの学年を「3年生」と表記していましたが、「4年生」の誤りでした。すみませんでした。

「ささき亭の登休み」

弁当配達が終わってちよと遅い登ごはん。みんな揃っていきたくします。

おなかすいたね、おいしいね、とにぎやかに食べる。食べ終わると大きな声で替え歌をうたう竹内さん。高森さんは絵を描くのが大好き。水附さんは音楽を聴いたり本を見たり。平田さんは私の横にひたりと座り夢を話す。その夢がころころ変わるの二人で大笑い。みんな仕事中には見せない顔です。

(ささき亭 竹田 ヨシ子)

「葉っぱのしるし」

『ひとはつうしん』を初めて手に取った人もいらっしやると思うので紹介します。『ひとはつうしん』のおもて面左右の余白に葉っぱがあるのをご存じてですか？実はこの葉っぱはきららが通信を折るときを目安になるように大体1/3のところに

ついています。先日私と通信折りをした三上さんはこの葉っぱをよく見ている「葉っぱが半分見えなくなるように折ってね。」と声をかけるとそのように折ることができます。以前葉っぱがなくなると頃のことを思うと今の仕事ぶりは本当にすごいものです。
(ひとは作業所 原田 圭介)

「二人の会話」

ひとは送迎業務を担って8年、昨年の夏からはグループホームの勤務となってもう1年が過ぎます。

本田さんは仕事に行くとき「足が痛い、腰が痛い」と言う。すぐに俺も「腰も足も、おまけに頭も痛いわ」と返す。歳はとりたけふいなあと冗談を言いながら、二人ヨイショヨイショと、休み休み西本邸からひとは寮までの急な坂道を登ります。その時に野球が大好きなこと、車を持っていたこと、彼女がいたことなど若いころの話が出来ます。月日が経つのは早いものだと感じながらも、私はこの短い時間が好きです。
(ひとは長屋 矢野 英二)

語り継ぎたいこと

— ころろえ帖 改訂版 —

ふり返りのない失敗はくりすくり返す

(字: 平田 暁識)

私たちは未熟です。未熟だからこそ、「何とかしたい」と自らの資質の向上にも励みます。その思いを生かすためには、まず自分の行動(支援)に意図(目的)を持つことです。意図があるからこそ、その正否を振り返ることができます。そして工夫が生まれます。「ただ何となく」では、自分でも意図がわかりませんから、指摘されても振り返ることができません。だから次の行動(支援)に生かすことができず同じ過ちを繰り返すこととなります。

最も影響を受けるのは、誰あれあなたと活動を共にするきららです。

トランプ紹介

名前 菅原 陽子

所属 ひあ・くらぶ

ほめてあげたい過去の自分

はちやめちや 3兄弟の母をしている自分
(現在進行形)

名前 葉師 正子

所属 共同ホームひとは

ほめてあげたい過去の自分

初めて県外で一人暮らしをして、色々なことを頑張った自分

編集 後記

グループホームで暮らす山野さんの長い一般就労から、ひとは(あつこ)での活動には、その「グアの山野」に於けるかと思いきや、今月号の岩見さんと対談「アトの山野」に、一番喜ばれているのは秋山さん。元々山田洋次の「息子」を題材に、三浦大輔が「おとさん」のシーンで、いっしょに遊ぶ。色あせない映画。 平尾 順子